

姫路赤十字病院だより

Japanese Red Cross Society Himeji Hospital NEWSLETTER

Vol. 31

January

2021.1

contents

2021年新春を迎えて

診療科の紹介 泌尿器科

診療科の紹介 小児科

Cooperation Message 地域医療連携室

退院後訪問

赤十字銀色有功章受賞

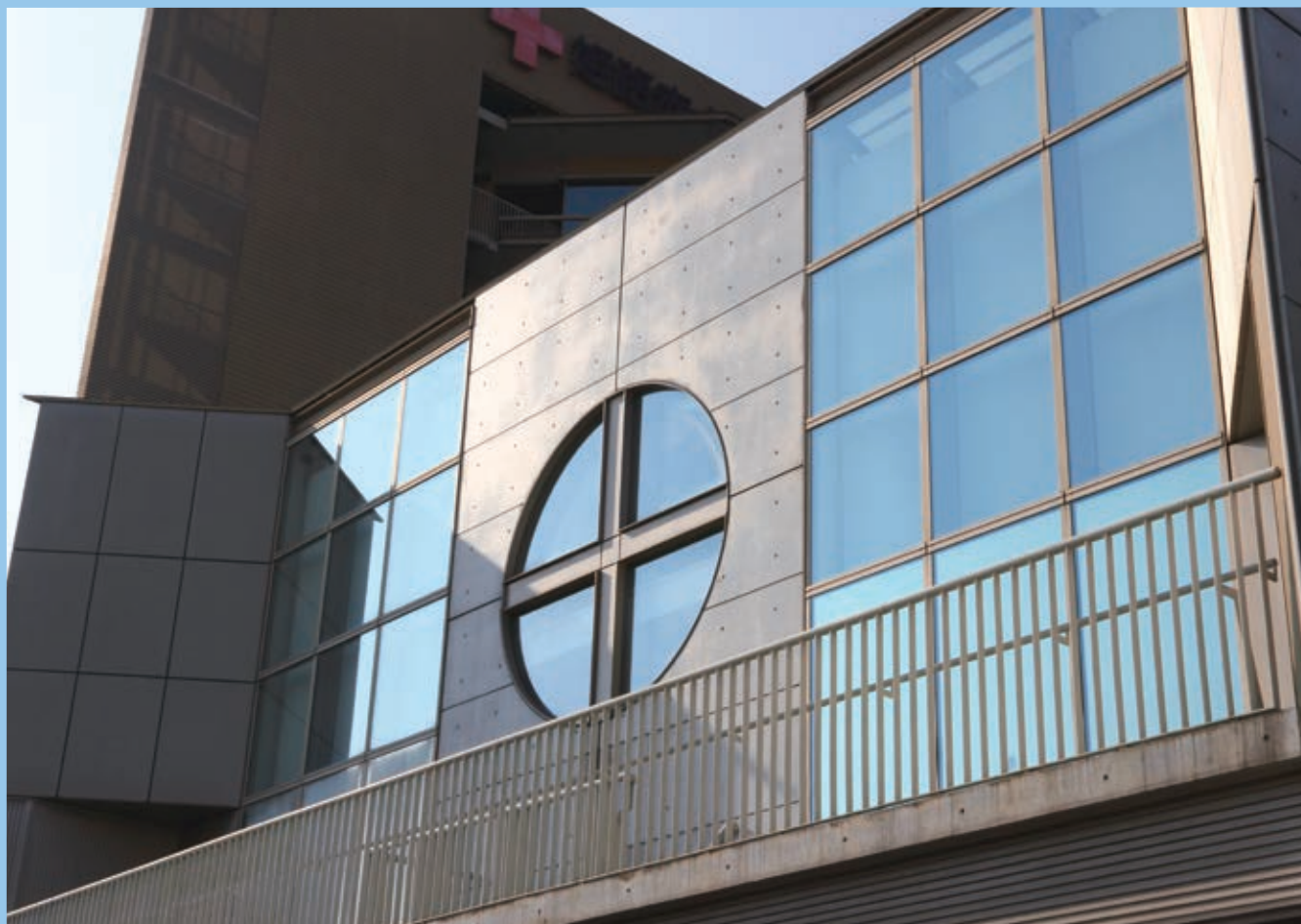
「造血幹細胞移植ベーシックセミナー」を開催

呼吸ケアチーム

看護部研修開催予定一覧

FAX紹介について

がん相談支援センター





2021年新春を迎えて



新年明けましておめでとうございます。2021年（令和3年）の干支は辛丑（かのと・うし）です。『辛丑』の組み合わせは相生であり、相性がよいとされています。辛は草木が枯れ新しくなろうとする状態を示し、丑は種が芽を出し成長する時期です。先を急がず物事を着実に進めることが将来の成功につながります。昨年は新型コロナウイルス感染症で始まりそして終わった感がありました。感染症対策を基本どおりに行い1日でも早く収束の兆しを見出したいと思います。干支にこだわらなければありませんが、2021年、当たり前を地道にやると道が開ける年でありたいと思います。

日本はすでに少子・超高齢社会に突入しており、周囲を見渡すと現実なものとして実感されます。人口減少、疾病構造の変化、多死社会、さらには社会保障費の増加等々、医療を取り巻く環境は極めて厳しく、しかも目まぐるしく変化しております。世界に類を見ない状況が次々に生じていますが、どのように対応するか明確な答えはありません。医療政策を踏まえ、国民・医療提供者だれもが協力して世界の見本となる成果が求められます。

国民にとって質の高い生活ができるよう地域に見合った地域包括ケアシステムの構築が今後の重要な課題です。こうした環境の中、医療提供体制も2040年に向けて、地域医療構想、医師・医療従事者の働き方改革、医師偏在対策が「三位一体」として推し進められています。地域医療構想は停滞感がありますが、奇しくもコロナ禍を経験し、行政、医師会、医療機関、介護・福祉施設等がそれぞれ役割を果たし、連携を強化せねば地域として機能しないことが明らかとなりました。関係者の意識が変わり地域医療構想は加速化されるのではと思います。医師・医療従事者の働き方改革、特に医師については、医師偏在対策とも密な関係があります。偏在改革には医学部入試・定員、専門医制度等々多くが関わり、時間を要します。姫路播磨地域の医師不足解消には先ず医師が働きたい環境を整えることが大切です。医師の働き方改革は地域医療へ与える影響は多大であり、医療機関のみで解決できる問題ではなく、地域住民そして行政の協力なくしてできません。行政を中心として地域住民、各医療機関が知恵を出し合って解決策を探る必要があります。但し2024年にスタートしますの

で、医師が働きたい環境をスケジュール上2022年までに整えることが必要で、整備が急がれるところです。

姫路赤十字病院は龍野町から下手野へ新築移転して今年で20年を迎えます。“住民へ必要な医療を、必要な時に届ける”をモットーに運営をしまいいりました。この間医療の進歩に伴い高度な医療提供が必要となり、また医療制度も変わりました。時代に合った地域での役割を果たすため地域医療支援病院、総合周産期母子医療センター、災害拠点病院などの役割を担い、高度医療提供のため、DPC特定病院群、地域がん診療連携拠点病院（高度型）、がんゲノム医療連携病院などの指定を受けています。高度医療を支える人材を育てるとともに、一昨年には高機能を備えた診断・治療機器を設置した新治療棟が稼働しています。一階部分には脳・心臓疾患専用のアンギジオ装置2台、IMRT対応の放射線治療機器、二階には消化器内視鏡室、外来化学療法室、三階にはロボット手術室、ハイブリット手術室など増室、四階は、NICU・GCUを新たに移設しています。さらに今年6月には高機能を備えたPET-CTが稼働予定で、高度医療を担うため整備を進めています。医師確保対策として初期臨床研修病院として毎年定員14名がフルマッチ、また内科専門医、放射線専門医研修病院（基幹型）として地域の医師を育てています。今後の地域医療にはなくてはならない特定行為研修の指定研修機関として、特定看護師も輩出しています。





地域包括ケアシステムでは地域医療連携室が中心となり、さらに医療福祉連携士の資格を有した人材をも配し、高度急性期病院から見た関わり方を進めており、今後この面でも地域への貢献を目指しています。

地域住民、患者とのつながりを深めるため、長年の課題であったアメニティー充実を主な目的として、地域開放型多目的ホールが6月に完成します。“連携”を住民に形として表すことが出来ると考えています。

これまで・これからも地域あつての赤十字病院でありますので、高度急性期の役割を担うべく、救急医療、小児・周産期医療、がん診療など少子・高齢社会の中で地域住民に必要とされる機能を整え、心のかような安全で良質な医療を実践します。そのためにも医師会関係の方々とは緊密な連携を図り、紹介患者さんを積極的に受け入れ、逆紹介もさせて頂く方針で地域医療に貢献いたします。

先生方から忌憚なきご意見・ご指導を賜れば幸いです。本年もどうかよろしく願いいたします。

令和3年元旦
院長 佐藤 四三

PET・コミュニティ棟 多目的・交流センター
名称の由来



令和3年6月、新棟が完成予定です。職員広くから新棟の名称を募集し、『PET・コミュニティ棟 多目的・交流センター』に決定しました。場所そして機能をわかりやすくさらに親しみやすい点でこの名称といたしました。

3階には当院にとって長年の課題でありました地域住民に広く開放されたホールを備えています。地域医療を中心として、様々なことに利用して頂き、患者、住民、職員が交流を深めることを目的としています。これからの医療は年々変化してきます。それに応じて求められる内容も変わってきますが、皆様とともに充実した機能に発展することを期待します。2階にはアメニティー充実を含めて、食堂を備えており、患者・家族・来院された方に利用し楽しんでいただければ幸いです。1階には高性能のPET・CT検査機器、MRI検査機器を備え、がん診断を充実いたします。



完成図



01

泌尿器科

スタッフ紹介

原口 貴裕 泌尿器科部長
(平成7年卒/泌尿器科全般)

西川 昌友 泌尿器科副部長
(平成19年卒/泌尿器悪性腫瘍)

田中 幹人 医師
(平成22年卒/泌尿器科一般)

安野 恭平 医師
(平成27年卒/泌尿器科一般)

戸邊 泰将 専攻医
(平成28年卒/泌尿器科一般)

北村 聡 専攻医
(平成29年卒/泌尿器科一般)



2019年診療実績

腹腔鏡下腎摘除術	21例
腎摘除術	7例
ロボット支援腎部分切除術	10例
腎部分切除術	3例
腹腔鏡下尿管全摘除術	23例
尿管全摘除術	1例
膀胱全摘除術	14例
(うち腸管利用膀胱再建術)	3例
回腸導管造設術	6例
尿管皮膚瘻造設術)	5例
ロボット支援前立腺全摘除術	63例
体外衝撃波尿管結石破碎術	64例
経尿道的尿管碎石術	41例
経皮的尿管碎石術	12例
経尿道的前立腺レーザー核出術	54例



当科の治療方針

現在後期研修医2名を含む6名の常勤医師で診療にあたっています。中播磨・西播磨における中核総合医療センターとしての責務を果たすべく、日々研鑽しています。

当科では主に泌尿器科関連の悪性腫瘍に対する診療を行っており、良性疾患については原則として外科的治療のみを行っています。悪性腫瘍に対しては、より低侵襲であるロボット支援手術や腹腔鏡手術を積極的に行う一方で、進行症例に対する拡大手術も実施しています。前立腺癌ではロボット支援手術を積極的に行っていますが、強度変調放射線治療 (IMRT) が今年導入され、より選択肢が広がりました。小径腎癌では主にロボット支援腎部分切除術を行っていますが、より複雑な症例においては開放手術での部分切除術も実施しており、可能な限り腎摘除術を回避するようにしています。前立腺肥大症ではホルミウム・ヤグレーザーを用いた経尿道的核出術 (HoLEP) を行っています。腎・尿管結石では体外衝撃波結石破碎術、経尿道的碎石術、経皮的碎石術のいずれの術式も実施可能であり、最良の治療法を選択するように心がけています。

地域の医療機関の先生方へ

平素より貴重な症例を紹介くださり誠にありがとうございます。患者さんには待ち時間が長くないへんご迷惑をかけております。FAX予約により緩和されますので、可能な限り利用くださいますようお願い申し上げます。

泌尿器科部長 原口 貴裕

ロボット支援手術について

ロボット支援手術の利点として、高画質の拡大された3D画像が得られること、手術器具は優れた関節を有しており人間の手をはるかに超えた動きが可能であること、手振れ補正機能があることがあげられます。このことにより、より安全で精密な手術が可能となっています。

当科では前立腺癌に対するロボット支援前立腺全摘除術と腎癌に対するロボット支援腎部分切除術を実施しています。今年11月までにロボット支援前立腺全摘除術76例、ロボット支援腎部分切除術15例を実施しており、すでに昨年手術件数を上回っております。

前立腺全摘除術においては骨盤底という動きに制限が多い術野で特に摘除後の膀胱尿道吻合に、腎部分切除術においては腎血流の遮断を要する腫瘍の切除および切除面の縫合にロボット支援手術の利点が十分に発揮されます。現在では多くの疾患に対して厚生省の承認が得られているロボット支援手術ではありますが、診療報酬において加算が設けられているのはこれら二つの術式のみです。それだけロボット支援手術を行うメリットが大きいと認識されている術式と言えます。

膀胱癌に対する膀胱全摘除術もロボット支援手術が保険適応となっており、今後導入すべく準備しています。





02

小児科

スタッフ紹介

久呉 真章 院長補佐(兼)第一小児科部長
(昭和58年卒/新生児・小児発達)

五百蔵 智明 第二小児科部長
(兼)救急副部長(兼)周産期母子医療副センター長
(平成2年卒/新生児・小児発達)

柄川 剛 新生児科部長(兼)
医療的ケアサポートセンター長(兼)研修副センター長
(平成10年卒/新生児)

上村 裕保 新生児科副部長
(平成14年卒/新生児)

黒川 大輔 新生児科副部長
(平成19年卒/新生児)

高見 勇一 小児神経科部長
(平成12年卒/小児神経)

中川 卓 小児神経科副部長
(兼)ゲノムカウンセリング副室長
(平成14年卒/小児神経)

阪田 美穂 第一小児科副部長
(平成15年卒/小児循環器)

神吉 直宙 第二小児科副部長
(平成18年卒/小児腎臓)

中迫 正祥 医師
(平成24年卒/小児科一般)

坂田 千恵 医師
(平成25年卒/小児科一般)

藤原 絢子 医師
(平成26年卒/小児科一般)

寺崎 英佑 医師
(平成27年卒/小児科一般)

河南 幸乃 専攻医
(平成28年卒/小児科一般)

清水 彩香 専攻医
(平成29年卒/小児科一般)

岡田 里枝子 専攻医
(平成30年卒/小児科一般)

栗林 睦子 専攻医
(平成30年卒/小児科一般)

加古 優香 専攻医
(平成30年卒/小児科一般)

岡田 伶 専攻医
(平成30年卒/小児科一般)

白井 佳祐 専攻医
(平成30年卒/小児科一般)

田中 陽菜 専攻医
(平成30年卒/小児科一般)

秋田 実咲 臨床研修医
(令和2年卒)



当科の診療方針

当科は、ありとあらゆる小児疾患に対応して兵庫県中・西播磨地域の小児医療の基幹病院としての役割を果たし、地域から信頼される小児科であることを目指しています。

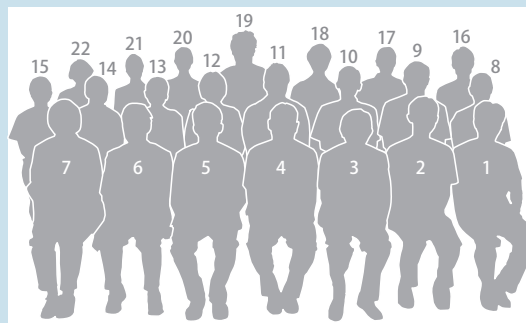
地域の医療機関の先生方へ

姫路市小児科医会の先生方には、姫路市休日夜間急病センターの一次救急診療を担っていただき、心より感謝いたしております。一次救急は急病センター、二次救急は当院と全国のモデルとなるような素晴らしい小児救急医療システムが構築でき、そのおかげで我々は重症児の診療に専念できています。

また正しい新生児蘇生法を広めるため産婦人科の先生方や助産師・看護師さん方を対象に新生児蘇生法講習会(日本周産期・新生児医学会公認)を計26回開催してきました。2020年は5年毎の改訂が行われる年で、コロナ感染症が落ち着き次第2020年版講習会を開催する予定です。たくさんのご参加をお待ちしています。

いつもたくさんの患者さんのご紹介をいただき有難うございます。これからも地域医療機関からのご紹介はすべて受け入れ、地域に必要とされ続ける小児科でありたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

院長補佐(兼)第一小児科部長 久呉 真章



- 1. 上村
- 2. 高見
- 3. 柄川
- 4. 久呉
- 5. 五百蔵
- 6. 中川
- 7. 阪田
- 8. 秋田
- 9. 神吉
- 10. 中迫
- 11. 黒川
- 12. 藤原
- 13. 清水
- 14. 岡田
- 15. 栗林
- 16. 寺崎
- 17. 加古
- 18. 岡田
- 19. 白井
- 20. 河南
- 21. 坂田
- 22. 田中

令和元年度診療実績

1.小児病棟(1月~12月)

気管支炎・細気管支炎	258例
肺炎	227例
胃腸炎	222例
咽頭・扁桃炎	221例
熱性けいれん	125例
川崎病	98例
気管支喘息	94例
てんかん	83例



診療内容

●外来・救急

紹介患者さんは24時間体制で受け入れ、また姫路市休日・夜間急病センターの後送病院を365日担当しています。

午前中は主に一般外来で、午前の一部と午後は予約制の専門外来（神経、低身長、糖尿病、腎臓、乳児検診、アレルギー、心臓、発達フォローアップ、肥満、シナジス）を行っています。

●入院

・一般小児医療

小児病棟（8階西病棟・50床）では年間約2,200名の小児科患者の入院診療を行っています。感染症などの急性疾患だけでなく、慢性疾患や心身症など、ありとあらゆる小児疾患に対応して幅広い診療を行っています。熱性けいれんや川崎病の入院患者数は毎年全国でもトップクラスです。

病棟にはプレイルームがあり保育士もいて、病気子どもさんができるだけ快適に過ごしていただけるように配慮しています。

・新生児医療

総合周産期母子医療センター NICU（新生児集中治療室・18床）、GCU（回復治療室・24床）で新生児医療を行っています。新生児専用救急車で24時間・365日体制で小児科医師と看護師が中・西播磨地域の産科に出向いてハイリスク分娩の立合いや病的新生児の搬送も行っています。また産科部門では地域からのハイリスク胎児・母体の母体搬送を多数受け入れていただいております、産科との連携を密にして、児と母体にとっての最善の診療を心掛けています。

年間約700名の低出生体重児や病的新生児を受け入れ、人工換気療法や低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法、新生児遷延性肺高血圧症に対する一酸化窒素吸入療法、急性腎不全や先天代謝異常症に対する持続血液濾過透析などの高度医療を行っています。またほとんどすべての小児外科疾患にも対応しています。



小児病棟ではクリスマスや七夕に、入院中の子どもさんやご家族を慰労するイベントも行っています



NICUでの低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法

尿路感染症	77例
食物アレルギー	48例
低身長	37例
クループ症候群	24例
腸重積	23例
特発性血小板減少性紫斑病	18例
アレルギー性紫斑病 (IgA血管炎)	16例
ケトン性低血糖症	16例

ネフローゼ症候群	12例
敗血症・菌血症	12例
非細菌性髄膜炎	11例
神経性食思不振症	9例
亜急性壊死性リンパ節炎	9例
脳炎・脳症	7例
糖尿病	6例

2.周産期母子医療センター
NICU・GCU (1月~12月)

超低出生体重児	20例
極低出生体重児	47例
人工換気症例	217例
一酸化窒素吸入療法	7例
低体温療法	3例
新生児専用救急車による新生児搬送	302例



Cooperation Message

地域医療連携室



入退院支援センターと地域医療連携課との連携

入退院センターは、手術予定患者の情報を多角的にとらえ入院前からリスクアセスメントを行い、問題解決に取り組んでいます。患者さんの入院から退院、そして外来継続看護までをシームレスに支援する部署として設置されました。

入院が決定すると入退院センターで入院説明、情報収集をおこなっています。患者・家族は入院に対する様々な不安を持たれています。退院支援の必要に応じて、地域医療連携課と連携し、入院前から介入を開始しています。また週に1回退院調整看護師やソーシャルワーカーとカンファレンスをおこない情報の共有をおこなっています。情報共有だけでなく早期介入の必要性の有無を協議し、必要性があれば入院前から患者・家族面談をおこない連携医療機関をはじめ、行政、福祉とも連携し、入院中だけでなく退

院後も安心して療養できるよう地域医療連携課と連携しています。また患者情報やお薬情報などで情報提供依頼をさせていただくこともあるかと思えます。お手数ですが、ご協力をお願いいたします。

入退院支援課長 田中 久美子



第45回地域連携カンファレンス開催報告

今年度は、COVID-19流行に伴い、地域連携カンファレンスの開催を控えておりました。しかし地域医療機関の皆様より「研修会をして欲しい」との嬉しい要望もありました。この度は、院内で協議をおこない院内職員は会場参加、地域医療機関の参加者は、webからの視聴としてciscoのwebexを使い12月3日に第一部として泌尿器科原口貴裕部長より「前立腺がんの治療について」で手術支援ロボット「ダヴィンチ」を使って行う手術について講演をおこないました。第二部は「前立腺がんの放射線治療について」第一放射線治療科部長の武本充広部長に講演をいただきました。今回、初めての取り組みでありましたが、21名のweb参加をいただきました。次回もwebを取

り入れた研修会を企画いたしますので、是非ともご参加をお待ちしております。

地域医療連携課長 前田 智成





退院後の安心・安全のために

ZOOM UP

退院後訪問

当院では、医療ニーズが高い患者さんが退院後も安心・安全に在宅での療養生活を送ることができるように、病棟看護師がご自宅へ訪問させて頂いています。退院前には予測される療養上の問題点について、退院支援を行います。それでも実際に退院して自宅に帰ると想定していなかった問題が新たに生じることがあります。これに対し、ご自宅を訪問することで在宅療養での不安を最小限にできることを目的としています。

病棟看護師は訪問して何をしているの??

1. 退院後の体調の変化の確認
2. 患者さんとご家族が在宅療養する上で困っていることへの対応
3. 実際の住宅環境を確認し患者さんと家族の在宅療養に対する不安の軽減

今回、訪問の対象となったのは70歳代男性の患者A氏です。遠位胆管癌術後、肝転移をみとめ化学療法を行いました。病態の進行により抗がん剤治療の継続が困難となり緩和ケアに移行しました。A氏、ご家族ともに在宅療養を希望されたため、近隣病院へ緩和ケアを依頼し、自宅退院となりました。

入院中に在宅療養に向けて主治医、看護師、医療社会福祉士、かかりつけ医の訪問看護師を含め、多職種でカンファレンスを行いました。現在の病状と日常生活動作、在宅療養をするにあたり必要になるケアや物品等についての検討を行い、在宅療養での不安を最小限にできるように退院調整をしました。今回は電動ベッド、尿器、ポータブルトイレ、オーバートーブルが必要と考え準備をしました。

本来は退院数日後に訪問を行います。A氏は退院数日前に急激なADLの低下をみとめたため、退院当日に自宅訪問を行うこととしました。自宅に着いてからは、まず退院前に調整した物品が揃っているか確認し設置しました。また、訪問看護師に現在のA氏の状態を伝え、A氏の状態に合わせて今後必要になると考えられるエアーマットの準備、医療処置など在宅療養について話し合いました。A氏はもともと他人を家には入れたくない方でしたが自宅に帰りたい気持ちが強く訪問看護に同意を得ることができた経緯があります。自宅に着きベッドでA氏の体位を整えると、窓から外を見渡せ、A氏は自宅に帰ってきたことが実感できたようで、とても表情が和らぎました。その表情を見てご家族からは家に帰れて良かったという言葉が聞かれ、自宅に帰ることができて本当に良かったと感ずることができました。実際の自宅の環境を確認し整えることができ、病棟看護師としてもとても良い機会になりました。このように患者さんやご家族の不安が軽減でき、安心して退院後も過ごせるように関わっていきたくと考えます。



6階西病棟 看護係長 佐藤 教弘

「赤十字銀色有功章」受章おめでとうございます

姫路赤十字病院で15年以上にわたり園芸ボランティアとして活動を継続されている岸麗子様がこの度「赤十字銀色有功章」を受章されました。

本来、11月30日(月)日本赤十字社兵庫県支部創立130周年記念赤十字大会として、赤十字の事業に多大な貢献をされた県内の方々に対し、感謝状等の授与式が執り行われる予定でしたが、県内の新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け急遽中止となったことから、12月2日(水)岸様に対し、佐藤病院長から感謝の意を込めて「赤十字銀色有功章」が手交されました。

受章された岸様からは「夏の暑い時期の花の水遣りや、晩秋の玄関前の落ち葉清掃など、早朝からの作業は大変ですが、健康が続く限りこれからもボランティアを頑張りたい」と心強い言葉が返ってきました。

社会課 社会課長 大西 勝彦



園芸ボランティア 岸麗子様



質の高いまごころのこもった医療

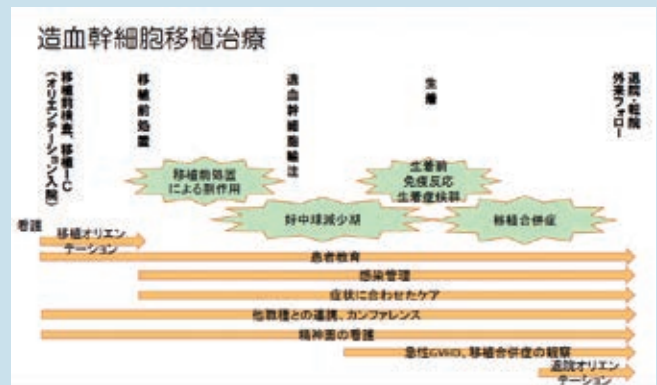
「造血幹細胞移植ベーシックセミナー」を開催

厚生労働省造血幹細胞移植医療体制整備事業としての「造血幹細胞移植ベーシックセミナー」を開催しました。新型コロナウイルス感染症対策のためハイブリッド型（オンライン・会場）での開催となりましたが104名が参加し、安城更生病院 澤 正史医師、岡山大学病院 河野 由香BCR看護師、当院 猪股 知子医師より講演を賜りました。

造血幹細胞移植は完治困難な患者が完全に病気から解放されることを目指す夢の治療ですが、一方で他人の血液細胞を輸注するので、合併症の予防・対応を細かくおこなっていく必要があります。今回のセミナーで治療にたずさわるすべての職種が専門性を発揮しながら高めあい、患者さんの病を治すために強いモチベーションを持ち続けながら働くためにどのように取り組んでいくとよいかを学びました。

当院は今年4月に「造血幹細胞移植地域拠点病院」に選定されました。移植を必要とする地域の患者さんに、チームワークを発揮し、質の高いまごころのこもった医療を提供したいと思えます。

副院長兼第一血液・腫瘍内科部長
平松 靖史



医療チームの紹介

呼吸ケアチーム

姫路赤十字病院では、人工呼吸器の安全性の向上や早期離脱のための専任チームとして、呼吸ケアチームが2010年より活動しております。

職種は、麻酔科医師、小児科医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士で構成され、毎週水曜日に回診を行い、人工呼吸器の早期離脱に向けた適切な人工呼吸器の設定や環境整備などを行っています。また、必要に応じて呼吸ケアチーム以外の医師、看護師等に人工呼吸器の管理や呼吸ケア等の指導を行っています。

人工呼吸器の年間装着日数は、年間5000件（成人1200件、小児800件、新生児3000件）となり、安全に使用していただけるよう、酸素療法と人工呼吸器の研修会を実施しております。研修会は、必須対象者を新人研修医と中堅看護師とし、講義と実際の人工呼吸器を使用した操作説明を行って、呼吸器が身近に感じられる研修になるよう心がけています。

臨床工学技術課 臨床工学技術課長 三井 友成



令和元年開催時の様子



研修開催情報

令和2年度 姫路赤十字病院 看護部研修開催予定一覧

※日程は変更する可能性がありますので担当者までお問合せください。

※新型コロナウイルス感染の影響もあり研修を中止する場合があります。ご了承ください。

▶レベルI研修

実施予定日時	研修名	テーマ・主な内容	講師	対象者
1/12 13:30~14:30	看護倫理I	看護師にとっての看護倫理について	看護係長	レベルI
1/26 13:30~14:30	グローバルヘルス	グローバルヘルスについて	看護副部長	レベルI
3/2 13:30~14:30	心に残った看護場面 「事例をナラティブに書いて語ろう」	ナラティブ事例の発表・共有	看護係長	レベルI

▶レベルII研修

実施予定日時	研修名	テーマ・主な内容	講師	対象者
2/5 13:30~14:30	後輩育成	後輩育成/リフレクション	教育担当部長	レベルII
2/22 13:30~14:30	グローバルヘルスII	国内外の保健・医療・看護・福祉の動向について知る	看護副部長	レベルII

▶レベルIII研修

実施予定日時	研修名	テーマ・主な内容	講師	対象者
1/29 13:30~15:00	実地指導者研修①	新人看護職員の理解/実地指導者の役割の理解	看護師長	レベルIII
2/15 13:30~14:30	実習指導	青年心理、教育方法/実習指導者の役割/ カンファレンスの持ち方	看護師長	レベルIII
3/8 13:30~15:00	グローバルヘルスIII	災害時、被災地域の文化やその地域の特性をふまえ、過酷な環境下での事故の危機管理・セルフマネジメントについて学習できる	看護副部長	レベルIII

▶看護補助者研修

実施予定日時	研修名	テーマ・主な内容	講師	対象者
2/26 13:30~14:30	守秘義務・個人情報と倫理	個人情報保護に基づく守秘義務・倫理・ハラスメントについて	看護副部長	看護補助者

▶専門・認定看護師研修

実施予定日時	研修名	テーマ・主な内容	講師	対象者
1月、2月、3月	小児急変時対応スキルアップ コース ~PALS G2015準拠~ 小児心肺停止時の対応	小児の急変時対応についての5回シリーズコース	不田係長 小児科医	小児救急
開始時期検討中 (年度またいで開催予定)	ストーマケア研修	術前~術後ケア 社会復帰に向けてのケア 器具交換の演習	松本師長 北原係長	皮膚・ 排泄ケア
3/10	手術室の感染管理について	手術室の設備と環境面について 手術中の感染管理について	小川師長 穂村係長	手術看護

【レベルI研修：フィジカル入門⑤看護技術シミュレーション】

多重課題・時間切迫状況という設定の中で安全に配慮した優先順位を選択し、基本的看護技術を実施できるよう研修しています。



*患者用物品を確保するため、手作りの物品を使用しています。

【レベルI研修：フィジカルアセスメントーバイタルサインー】

看護の視点から見るバイタルサインを理解し、観察や測定の結果について客観的に評価できるよう研修しています。



研修時、例年であればお互い聴診をしますが、今年度は新型コロナウイルス対策のため個々で聴診を行っています。

*座席は1席1名を徹底し、マスク着用・手指消毒・会場の換気を行いながら研修を行っています。

看護師研修、専門・認定看護師研修について 詳しくは http://himeji.jrc.or.jp/kangobu/kyouiku_program.html をご覧ください。

問い合わせ先 姫路赤十字病院 看護部 TEL 079-294-2251(内線3001)/FAX 079-296-4050



患者さんのご紹介はぜひFAX紹介をご利用ください

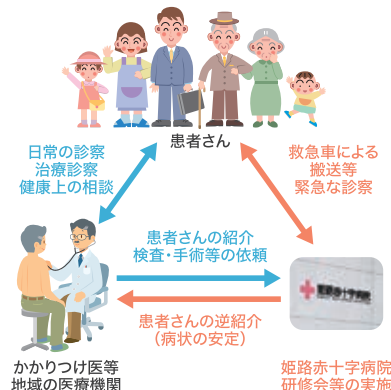
当院では、地域の先生方と緊密な連携と役割分担を図りつつ、より良い医療を提供していくことで、地域医療の充実を目指しています。

紹介状をお持ちでない患者さんが当院を受診された際は、まず、かかりつけ医を受診していただくようお願いしていますので先生方のご支援を賜りますようお願いいたします。

また、紹介状をお持ちでも直接来院された場合、来院された日に受診出来なかつたり、待ち時間が長くなつたりとご迷惑をおかけすることがありますので、是非FAX紹介をご利用くださいますようお願い申し上げます。

【患者さんにとってのメリットは？】

- 症状に応じた専門医の診察を受けることができます
- 受診日時が決定するので、スケジュール調整ができます
- 初診申込書の記載が必要ないので手続きがスムーズにできます
- 初診時選定療養費5,000円(税別)が徴収されません
- 外来での待ち時間が最小限となります



FAX紹介受付時間	平日 8時30分～19時まで	土曜日 8時30分～12時まで
-----------	----------------	-----------------

診察日	原則 1週間以内	*但し、検査・診療科・診療内容により及び希望日が集中する場合がございますのでご了承ください。
-----	----------	--

問い合わせ先	地域医療連携課 TEL:079(299)5514(直通) FAX:079(299)5519(直通)
--------	--

がん相談支援センター

当院では、がんでお悩みの患者さんやご家族の方が安心してご相談いただける窓口として「がん相談支援センター」を設置しております。当院の患者さんやご家族はもちろん、地域の方、当院かかりつけでない方もご利用いただけます。

相談予約	あらかじめ電話でのご予約をお願いいたします
------	-----------------------

病院代表：079-294-2251

直通：079-299-0037

受付時間	平日 8:30～17:00
------	---------------

相談時間	1回60分程度
------	---------

また、当院2Fエントランスホールの相談支援センターブースでも相談・予約を承っております。

【姫路赤十字病院の理念と基本方針】

理念

『わたしたちは、医の倫理と人道・博愛の赤十字精神に基づき、心のかよう安全で良質な医療を実践します。』

基本方針

- 1.患者中心の医療…患者の人権と意思を尊重し、患者とともにチーム医療を実践します。
- 2.災害医療の充実…国内外の災害救護活動に積極的に取り組みます。
- 3.地域との連携…高度専門医療・急性期医療・救急医療をとおり、地域完結型医療に貢献します。
- 4.優れた医療人の育成…教育・研修・研究を推進し、人間性豊かな医療人を育て、医療水準の向上に努めます。
- 5.魅力ある職場づくり…働きやすい環境、誇りある職場を創ります。
- 6.健全経営…健全経営を維持し、医療活動を通じて社会に貢献します。

【患者さんの権利と責務】

患者さんの権利を尊重します。

- 1.安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 2.十分な説明と情報提供を受けることができます。
- 3.他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求めることができます。
- 4.自分の意思で、治療方針を自由に選択・決定することができます。
- 5.自己の診療情報の開示を求めることができます。
- 6.個人情報やプライバシーの保護を受ける権利があります。

患者さんご家族の責務

- 1.健康に関する情報を正確に提供してください。
- 2.診療内容を十分理解し、納得した上で医療を受けてください。
- 3.医療者とともに安全確認に参加し、治療に協力してください。
- 4.病院のルールに従い、他の患者さんへ迷惑にならないように努める義務があります。
- 5.医療費の支払い請求を受けた時は、速やかに対応してください。